

- 1 あいさつ(石田会長)
- 2 報告 第3回協議会の概要
- 3 協議

(1) 伊賀地域における高等学校の今後のあり方について

会長 前回に引き続き、平成17年度の「協議のまとめ」に示された「4校案」をベースに、本日出された資料を踏まえて議論をしていただきたい。

田山委員 資料では名張の普通科2校は進路状況にあまり差がない印象を受ける。そうであるならば「2校を1校に統合すると選択肢が減る」という意見は実態と合っていないのではないのか。同じような学校なら1校にして、スポーツなど異なる部分で、それぞれのいいところを重ね合わせた方がいいと思う。

会長 私がSSHの運営委員長をつとめる津高校のトップ層は名張の生徒である。名張の優秀な生徒が、名張の高校に行かないというのが現実である。津まで行かなくても、地元にしちんとした受け皿としての学校をつくらないといけないのではないのか。

味岡委員 普通科2校のイメージで考えた方がいいという前回の議論の総括に賛成である。名張で同じ傾向の高校が2校あって、小規模化していくことは、高校の活性化にならない。名張の子が津の高校や近大高専を選択して行っている状況を見ると、活性化のために名張桔梗丘高校と名張西高校を1校にまとめざるを得ないのではないのか。場所的な問題については、伊賀全体が通いやすい高校を選択して統合し、その高校を一定規模にして、上野高校と同じレベルの高校が2つあるという考え方が大事だと思う。

上島委員 平成32年度については「4校案」をベースに考えなければならないが、それまでに名張の2校を1校にして、本当に特色のある学校ができるかというところが思わない。進路の数字だけ見れば2校はあまり差がないが、中身が若干ちがう。平成27年度は一時的に3～4学級になるかもしれないが、平成28年度に中学校卒業生数がまた増加するので、できる限りぎりぎりまで、2校を存続して、進学だけでない活性化を考える方がいいのではないのか。

中谷委員 数年前から名張の分科会では「名張の子は名張3校で」と考え、活性化の議論をし、いろいろと取り組んできたが、なかなか結果に結びつかず、生徒が津方面に流れているのが現実だと思う。中学校卒業生数の減少から、名張の普通科2校を1校にすることによって活性化が図れるのであれば、当然それを選択すべきであろうと思うが、残った学校を使って、普通科ではなく、子どもたちにとって、もっといい意味で異なる形態の学校ができないかという議論も必要だと思う。

田山委員 あげぼの学園高校は特徴からみて、この議論では別枠であり、中学校からも要望があるとおりだと思う。そう考えると上野では高校は4校あったが今は2校であり、名張では近大高専ができた状況やコストパフォーマンスから見ても3校が2校になるのは当然だと思う。都市間競争の中で教育の占めるウェイトは大きく、いい学校を置くことが一つの大きな目標となる。地元の子もただで行くならば、普通高校でかなり思い切って英才教育的なこともやらないと、県立高校自体も沈んでいってしまう。

会長委員 今の名張桔梗丘高校と名張西高校をどちらかに統合して、吸収する形だとイメージが変わらない。本当に優秀な子が行ってみようという高校になるかどうかが、一番のポイントだと思う。革新的な学校づくりをしないと、この地域の期待に応えられないと思うし、どのようなケースがあるかも含めて県教委で考えていただきたい。

- 田山委員** 教育特区的な部分を考えて、名張の高校にもっと外からも優秀な子をよぶ。
- 中谷委員** その一つの姿として県立の中高一貫教育校もあると思う。
- 木平委員** 伊賀地域の県立高校PTA会長の集まりでは、学校をなくしてしまうのではなく、異なる形であっても今の高校を残してほしいという意見が多かった。私個人としては、名張に近大高専が来たので、県立3校は最終的に大きな一つの学校になって、スポーツや文化で特色があり、特進クラスや外国語学科などを置いて、全国や世界で活躍できる人材を育てる、「すごい学校が名張にできた」といえる学校にればと考えている。
- 三木委員** 伊賀市PTA連合会では小3から中3の保護者を対象にして「進路に関するアンケート」を実施した。その中に県立高校について、「子どもの進路希望をかなえるため、伊賀市内に普通科をもう1校つくってほしい。」、「少子化が進み、高校の再編はやむを得ないかもしれないが、改編される場所によって通学が困難になったり、経済的な負担増になることは避けてほしい」、「伊賀白鳳高校になってレベルが上がると期待したが、残念なのが現状である」などの意見があったということを紹介する。
- 味岡委員** 伊賀市内にもう一つ普通科高校をつくることは現実的ではないが、旧阿山郡では名張の高校への通学は保護者が送迎しなければならないという背景があり、もう一つの普通科高校を名張にしっかりと位置づけるなら、伊賀市と名張市のどちらの子も通いやすい場所であるべきだと思う。
- 三木委員** 通学に関しては、多くの小学校と中学校で送迎バスがあるが、それを高校にも適用する形で進めるのも一つの方法だと思う。
- 味岡委員** 伊賀市は小中学校を再編しているので、バスは絶対に必要になる。最近私設の交通会社がいくつかできているので、設定の仕方によってはありうる。
- 事務局** PTAのアンケート結果の中に、伊賀白鳳高校に対して厳しい意見があったが、高校駅伝など部活動での活躍、進学でも国公立大学に合格者を毎年出すなど、頑張っていると思う。また、統合することによって本当に活性化するかという意見があった。学校規模は異なるが、尾鷲高校は長島高校や尾鷲工業高校と統合する中で、進学実績が悪いという地元からの指摘を受けてプログレッシブコースを作り、国立大学の医学部にも進学させる実績を持つなど成功した事例もあるので参考までに報告したい。
- 味岡委員** 伊賀白鳳高校は、ずいぶん頑張っていると思う。伊賀市はキャリア教育に力を入れており、伊賀白鳳高校と近くの小中学校が連携してキャリア教育の取組を進めている。地域の教育に大きな要因を持つ高校になっているという意味でも活性化している。
- 事務局** 伊賀白鳳高校は今年初めての卒業生を出す。就職にとって経済状況がたいへん厳しい中、伊賀白鳳高校の内定率は高い状況であるなどの成果が上がっている。
- 高田委員** 平成27年度に伊賀地区で再編が行われる中で、本校においても設置学科の存続ありきではなく、地域の産業がどのような人材を求めているかなど、ゼロベースで考えて設置学科を見直す必要があると思っている。日本の経済を支える人材、企業が求める人材を輩出するのが専門学科の役割である。生徒のほとんどが伊賀で就職する中、そういう生徒たちを支える学校を築かなければならないと考えている。また、大学進学希望の生徒には、課外で教育をするなど、サポートのシステムも作ろうとしている。
- 会長** 今日の議論を踏まえて私が感じていることは、まず、2校が4学級程度の規模で横並びの状態では、活性化はあり得ない。これは全員が共有できていることだと思う。2つ目は、仮に一つの高校にするとして、どう活性化できる高校をつくるか、特色ある学校づくりが本当にできるのかということである。3つ目は場所的な問題である。

あまり不便なところにあると一体化にはならないので、場所に気をつけて、さまざまな意味で特色ある学校を考えなくてはならない。そういうことを実現するのであれば、私の理解では時期は平成27年度だろう。このような形で本日の意見を頂戴したと理解しているが、これでよいか。協議は本日で終わりなので、事務局と相談させていただいて、この協議会でなされた議論のまとめのようなものを残したいと思う。

上島委員 それでよいと思うが、ここで議論するだけでなく、もっと市民や保護者に発信していかないと、やっていることが伝わらず、うまくいかない部分があると思う。

会長 私と事務局で「まとめ」を作成し、皆さんにお伝えして指摘を頂戴したい。基本は平成18年度の「協議のまとめ」の内容が継続されているとご理解いただきたいと思う。